

# 定住社会と移動社会

高井 マサ代

人間は定住と移動を繰り返してきた。農耕社会にあっても、狩猟社会にあっても、同じである。本来、動物は定住を求めている。移動するときは、それなりの理由があつて、移動した。例えば、争いに負けた。例えば、環境が激変し、それまでの場所に住めなくなった。

狩猟社会は移動社会だと考えられがちだが、縄張りを持っている社会は定住社会である。牧畜業など移動して生計を立てているとしても、同じ場所を巡回しているならば、やはり定住社会だと考える。

日本の歴史を振り返ってみると、移動社会だったのは、戦争の時代だった。大陸に移動した太平洋戦争の時代、江戸から明治へと移行した時代、室町から徳川に至る戦国時代の領地争い、領地換えなどである。

江戸時代においても、個人で移動した人は居る。それを移動社会とはいわない。組織として移動することを移動社会という。

古代、防人たちが故郷を懐かしんで詠んだ歌がある。これをもって移動社会を論じるのは意味がない。防人たちは組織的に移動しているが、故郷には家族や一族がいる。役目が終われば故郷に帰る。故郷の家族は移動していない。故郷の家族と共に移動することを移動社会という。

ところが、戦後の移動社会は、それまでとは違っている。戦争なしに、共同体が消え、島の住民が消えた。個人の移動が社会全体に及んでいる。

「戦争なしに」とは言っても、世界を見渡してみると、戦争の時代ではある。

日本も世界秩序の一環に組み込まれている以上、世界の影響を排除できない。現代社会の移動は、戦争の時代だから移動が激しいのか、平和の時代にあっても大きな移動は起こるのか、考えてみよう。

なぜ戦争の時代に移動が激しくなるかという点、戦争による領土拡張と共に、人の

移動が始まる。国が安定すると、人の移動が止まり、国を維持するために人の移動を制限する。北朝鮮などは典型的に国を維持するために人の移動を制限している。現代社会の異動は、グローバル化という名の元に人や物の自由な移動が認められ、狭い領土に閉じ込められていた日本人が世界中に拡散したことではないだろうか。貧困な土地から、より豊かと思われる土地に移動するのは当然の帰結であろう。国の発展のためには、グローバル化は避けて通れない神技のようにもてはやされているが本当にそうなのだろうか。

戦争なしに領土を拡大すると同じ効果のあるグローバル化とは、どういうことなのだろう。グローバル化とは平和なのか戦争なのか。国としての平和は保たれているけれども、個人のレベルでは戦争状態を意味しているのではないだろうか。正規職員の長時間労働、派遣労働、働く貧困層、受験競争、詐欺被害、これらは異常なレベルに達している。

家族がバラバラになり、地域が崩壊し、金だけが頼りの社会がグローバル経済である。グローバル化は戦争の形にも影響を与えている。

例えば、シリアの戦争は、シリア国民にとって、筆舌に尽くしがたいほど悲惨である。それはシリア国民だけの戦争ではなく、世界中から兵士が馳せ参じていることにある。これからの戦争は、一度始めると、グローバルに兵士が集まる時代だと考えておく必要がある。

グローバル化と民主主義は一对になっている。

民主主義とは本当に民意を現した選挙体制なのだろうか。

選挙が武器を使わない戦争だとしたら、戦争が個人のレベルで行われていることと同じなのではないだろうか。

例えば、ある優秀な女性が夫の反対で選挙に出られないとしたら、その時点で、すでに戦争に巻き込まれていて、本人が気づかないだけかもしれない。

選挙はオープンで誰でも出られそうだが、誰でも出られない。ある種の見えない選別がある。見えない選別を有効にするために、あらゆる手段を尽くす。それは戦争と同じ手段である。

ある会合で面白い話をきいた。小学生が書いた話だと断って、この話で何を感じるかという問いが発せられた。

白い毛を持った牛と黒い毛を持った牛がいた。白牛と黒牛は、毎年一回の戦いをし、

勝った方が肥沃な草を食べられる土地を与えられるのだとか。肥沃な土地の黒牛は毎年勝ち、貧弱な土地の白牛は小さく毎年負けていた。あるとき白牛の中に茶色の牛が生まれた。仲間はずれにされていたが、茶色なので夜の闇にまぎれて黒牛側の草を食べに行っていた。その茶色の牛が戦いに勝ち、黒牛側の茶色のメスと結婚して、白も黒も平等に肥沃な草を食べられるようになった。めでたし、めでたし。という内容だったと思う。

誰もがこの話に疑問を挟まなかったが、私は、「これって、グローバル化の理論でないだろうか」と思った。

今は白い牛の国家と、黒い牛の国家に分かれている。白い牛も黒い牛も同じ土地に住み、同じものを食べれば平等に機会が与えられて良いではないか、という理論に思えた。しかし、残念なことに機会は平等には与えられない。強い者はますます強くなり、弱いものはますます弱くなる。結果自然淘汰され、同じ種だけが生き残る。結果として人類の滅亡を早めることになるのではないかと思う。



高井 マサ代

職業 薬剤師

一九四六年八月四日 徳島県三好市池田町漆川で生まれる

一九六五年三月 徳島県立池田高校卒業

一九七〇年三月 京都薬科大学卒業

一九九二年三月 滋賀大学経済学部卒業

一九九五年四月 徳島県三好郡池田町議員当選

二〇一〇年四月 徳島県三好市議員当選

二〇一四年四月 徳島県三好市議員落選